



untitled

<http://www.kana-pie.com>

「untitled」 肩書や、形にとらわれず、自由に広がりのある活動を目指して・・・

神奈川県社会福祉法人経営青年会通信

contents

活動報告	－合同宿泊研修会－	・・・・・・	1・2面
	－保育研究委員会研修会－	・・・・・・	2面
	－第23回社会福祉法人経営青年会全国大会－	・・・・・・	2・3面
	－関東甲信越静ブロック経営青年会 総会・研修会－	・・・・・・	3・4・5面
	－会員交流会－	・・・・・・	5面
	－2019年度第2回総会・研修会－	・・・・・・	5・6面
	－令和元年度都道府県経営協セミナー（後期）－	・・・・・・	6面
お知らせ	－今後の予定・会員数－	・・・・・・	6面

活 動 報 告

合同宿泊研修会

会員の資質向上と情報交換を図る毎年恒例の「宿泊研修」を令和元年10月16日（水）、17日（木）に「吉池旅館」で行いました。昨年同様に他県の青年会からも参加があり、総勢25名での開催となりました。

さて、近年社会福祉関連法が改正され、さらに経営に力を入れなければならない時代となっています。そこで今年度は2名の他業種の経営者を講師としてお招きして、『成功する経営者』をテーマにご講演いただきました。

1日目は、株式会社なんでんかんでん代表取締役社長の川原ひろし氏にご講演いただきました。

川原氏は、東京都に初めて本格派豚骨ラーメン「なんでんかんでん」をオープンし、同店を瞬く間に繁盛店へと成長させました。成功の秘訣について、『一番大切なことはコミュニケーション。相手を思いやる接客をして、心からの感謝の気持ちを言葉にした、「ありがとう」を伝えること。』と、話されていました。

「ありがとう」の反対語は「あたりまえ」。日々の人生は当たり前前ではない。言葉は力。心からの「ありがとう」を経営者のみならず、すべての職員が意識して言葉にすることで、人と人は信頼しあうことができる。その結果が「またあそこに行こう。」に繋がるという内容でした。

2日目は、株式会社アトムズ代表取締役社長の仁村大祐氏にご講演いただきました。

仁村氏は東京都庁主税局徴収課部に在職、退職後は経営コンサルティング業務に従事し、株式会社アトムズを設立されました。「成



集合写真

功している会社はどんな会社？」をテーマにして、グループディスカッションも行われ、会員が活発に意見を出し合う場面もありました。一例として挙げられた飲食店での成功の秘訣には、『味が2割。残りの8割は「挨拶・清潔・接客」等のより良い関係を構築する上で大切なこと。』と、川原氏の講演に通じる部分もありました。

また会社は人が大切、成功するためには職員の育成や働きやすい環境が必要不可欠、人が育てば会社も伸びるとのお話をいただきました。

2日間という短い時間でしたが、「大切なことは『成功＝バランス』。ヒトもモノもカネも情報もすべてを同じように『1番大切』と考え実行していくことで、継続した法人経営ができる。」と、感じたとても大切な研修となりました。

参加者の皆様、講師のお二人、準備から研修終了までご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



研修風景

【研修委員 大畑 直】

保育研究委員会研修会

令和2年2月25日(火)に開催を予定しておりました、依光 洋志氏(Tony Buzan 公認マインドマップインストラクター)による、「マインドマップ」研修は、新型コロナウイルス感染拡大防止の理由で中止となりました。

参加申し込みいただいた皆様方には、お詫び申し上げます。

【保育研究委員 磯野 一途】

第23回社会福祉法人経営青年会全国大会

令和元年11月7日(木)、8日(金)とホテルメルパルク名古屋にて第23回社会福祉法人経営青年会全国大会が開催されました。冒頭挨拶で梅野高明会長は340名以上の参加報告、多様性と持続可能性の2点の重要性を発信されました。また来賓として大村秀章愛知県知事の代理愛知県福祉局長の平田氏、河村たかし名古屋市長の代理名古屋市健康福祉局長の梅野氏より祝辞をいただきました。

梅野会長による基調報告は「2040年を見据え、時代を担うものに求められること」と題し、2040年の本当の課題は高齢化と少子化よりも人口減少にあるとされ、全国青年会として①地域共生社会の実現と②福祉×innovationの2つのテーマを掲げ、事業計画を作成し実施していくと訴えられました。



情報交換会

厚労省福祉基盤課長宇野氏からは「地域共生社会の推進とこれからの社会福祉法人への期待」と題しての行政報告でした。経営の大規模化・協働化に位置づけられた社会福祉法人の事業の協働化等の促進方策等の検討委員会設置を強調されました。地域共生に関しては新たな包括的な支援の機能として、①断らない相談支援、②参加支援、③地域やコミュニティにおけるケア・支え合う関係性の育成支援を検討されているとのことでした。

プロフィギアスケーターの鈴木明子氏からは「先を見据え、目標達成までの道筋を構築する～壁を乗り越え挑戦し続ける力の養い方～」と題しての記念講演でした。大事なのは口に出して同じ目的を他人と共有することで、志半ばで摂食障害となり最も苦しんだ時期があったが、「もう一度滑りたい。」、ただそれだけの思いで復活を遂げることができた。健康になるために生きるのではな

く、生きていくために病気を乗り越えた先に何か欲しかった。目標が必要であり、また評価され感動を与えたいというモチベーションが後押しした。過去に戻りたがっていたが胸を張って遠回りが無駄ではなかったと示すため、未来を変えることへと切り替えることができた。より目標を明確にし、やることがはっきりさせることが大切であることを教えられました。

シンポジウムは4つの委員会より報告されました。①総務広報委員会は会員拡大を目指し、Facebook、Twitter、Instagramなど様々な手法を取り入れイメージアップの活動を進める。②研修委員会は研修を柱として、その内容の重要性を経営者会の理事長へ発信し、青年会の会員拡大へ理解を求める。③制度政策委員会は地域共生社会を実現するための具体的な実践と全国経営協「中長期計画策定マニュアル」の普及・活用、災害時支援体制の構築を柱に検討を進めていく。④次代の創造委員会は未来価値構想チームと福祉における生産性検討チームに分かれ議論を進める。各委員会へ廣江氏より鋭い質問と激励をいただきました。

2日目は3つの分科会の中の第3分科会に参加しました。第1部は「福祉における生産性と美芳会の取組」として大塚氏が発表されました。生産性はoutputを増やしinputを減らすことである。グループウェアの導入により事務業務等の改善を検討した内容でした。第2部は「未来価値の構想に向けて多様な方が笑い合えるダイバーシティのまちへ」として藤田氏が発表されました。明るい福祉、それが価値と捉え、具体的には小学校の教室にふれあいの部屋という障害者の作業所を設置し、小学生やPTAや地域との関りを当たり前にした実践内容でした。いずれも生産性と未来の価値を指し示すわかりやすい内容でした。また当会の田代会長は「人材確保のためのPR・広報・ブランディング」をテーマとした第1分科会にて司会進行の大役を果たされました。

特別講義は「信頼を勝ち得るための個人との向き合い方と後進の育て方」と題して加藤氏が行いました。一瞬のミスが命取りになる環境の中でプレッシャーによって失敗しないために淡々とやること。①人生に細やかな計画を立てない、②目の前のことに徹する、③医師としての原点に立ち返ることである。また頑固さはもろさにつながるとし、①無理して頑張らない、②メリハリの付け方を知る、③トラブルは起こるものと想定しておくとした。自分の悩みは自分で導き出すとし、今日と明日では判断する状況が異なり、その日その時決めた答えがベストアンサーと考える。またどんな場合でもウソをつかず、何十回と説明をし、一人一人とゆっくりと向き合うことが必要とした。大事だと思っていることはとにかく好きなことをやる。①得意分野を持つ、②上司に期待される存在になる、③最後に壁にぶつかったら環境を変える。そのため複数目標を設定し同時進行するのが良いとお話しされ、個人との向き合い方の参考になりました。

以上、多岐に渡り盛りだくさんなプログラムはとても刺激になりました。



第1分科会

【総務広報委員 広嶋 稔之】

関東甲信越静ブロック経営青年会 総会・研修会

令和2年2月13日(木)・14日(金)、ホテルブリランテ武蔵野で139名の参加のもと開催されました。埼玉県青年会会長馬場氏の挨拶ではテーマの「継往開来は先人に学び受け継ぎ発

展させ未来を切り開く」の趣旨を力説され、来賓は埼玉県福祉部社会福祉課課長和泉氏、埼玉県社会福祉協議会会長山口氏、埼玉県経営者協議会会長金子氏、全国青年会副会長菊地氏が挨拶されました。

講演Ⅰは「福祉業界人材採用のブランディング」として(株)リクルートキャリアの坂本氏の講演でした。採用ブランディングではサービスを受ける側にならないと仕事への興味が湧かず、特に介護はその機会が少ないことを指摘され、介護業界の離職率は一般企業と同水準になり、定着力と採用力をセットで取り組むことの重要性を述べられました。また3年未満の離職が多く、フォローの重要性や研修も対利用者が優先されるが、実は職員間の研修が重要であるとし、ターゲット層も全体ではなく絞り、レスポンスも24時間以内など素早い対応が重要であると述べられました。

講演Ⅱは「どんなマイナスもプラスに変える五感経営」として石坂産業(株)代表取締役石坂氏の講演でした。産業廃棄物処理事業者はダイオキシン汚染報道などで環境汚染の会社とされ、町から追い出す署名が3000名集まるなど業界の信頼が無く、イメージが悪い産業がスタートでした。近所からは嫌われるが必要な仕事として捉え、また顧客からは廃棄物を安く捨てたいという依頼により料金で選ばれることを踏まえ、変革する経営に取り組みました。100%再生できるブランドを作ることと100年続ける経営に挑むため、1年間チャンスももらい社長になったそうで、続けることを自問自答し、自分たちが変わることによって視点を変えて働く人の人材教育に取り組みました。また産業廃棄物業者は先にお金をもらうため、次に考えるのは如何に燃やさないか、埋めないかであり、リサイクル比率98%を達成しています。中小企業の強みはスピード感であり、その決定も拡大するより縮小することが難しい、思いは見えないので社員や地域へ見える化することに取り組みました。第三者評価の指標としてISO取得に取り組み、社員教育は伝えるより伝わるのが難しいとし、50講座を設けて社内の課題は社員が解決する方向に変革していきました。最後にビジョンを示すのは大事で、情報を共有化し、財産化し、ファンを作る、見えないブランド力を持つことで同業他社との圧倒的な違いを明確にされました。

講演Ⅲは「渋沢栄一に学ぶ福祉のこころ」として渋沢資料館館長井上氏の講演でした。渋沢栄一氏は父の藍玉通の家業を手伝い、実践を通して経済を学びました。尾高氏の元で学ぶ際は、多くの情報に触れ洞察力の鋭さを磨き、柔軟で広い視野を持つことで総合的な判断力を培いました。色んな意見や考えに触れ、自身の考えの位置を確認し、旺盛な好奇心と共に状況の変化に適応する術を学んでいきました。国を強くすることは経済を強くすると捉え、500社の会社立ち上げに関わりましたが、これは自分の会社にしなかったため多くの会社と関わることができたようです。3か月でアメリカの60都市を周り、この経験を帰国後に発揮し、

東京養育院など福祉の分野で500社とは別に600の事業と関係を持ち、1人で1000以上の事業に携わりました。士農工商で商人の身分が低かったが、人づくりによる次世代の担い手を育成すべく商業教育を行い、救済事業においては救貧から防貧へシフトし、その頃慈善事業から社会事業へと変化していきました。関東大震災を受けて現在の生活保護法のもととなる救護法を成立させました。渋沢栄一の福祉の原点は、慈悲深い母のライ病患者に対する差別なき対応、面倒見届ける易



研修会



研修会



情報交換会

しさがあげられ、総合的判断が養われており、バランスを保つため福祉にも目を向けました。施設の整備だけでなく運営にも目を向け、戦争負傷者にできる仕事を与えて役割を示したり、子供、老人、病人、それぞれの場所を分けて考え、事業拡大から機能分化を図ってきました。自分より公益を優先し、官の保管を民が行うのではなく、民が先導して国を引っ張ることが社旗貢献であり、国際社会への貢献になるとされました。

総会・各都県活動報告では埼玉青年会会長馬場氏を議長とし、平成30年度決算及び令和元年度予算案が承認されました。当会の田代会長は、なんでんかんでん社長川原氏などユニークな講演、東京都山梨県各青年会との合同研修、研究委員会活動でEPAについての情報共有など神奈川独自の有力な取り組みを報告されました。

情報交換会もほぼ全員が参加し、講演と併せて大変有意義な2日間となりました。

【総務広報委員 広嶋 稔之】

会員交流会

令和元年12月23日ホテルプラム横浜にて会員交流会を開催しました。今年の参加は、34法人、37名の出席でした。田代会長より冒頭の挨拶、真壁副会長より乾杯の挨拶をいただき、会は和やかに始まりました。クリスマス前ということもあり、かわいいサンタクロースやトナカイに扮した委員達が司会進行を行い、盛大なビンゴ大会も行われました。今回の名刺交換会は立食パーティー形式で行ったので多くの会員同士が交流を深めることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

来年も皆様とご一緒できることを楽しみにしています。



会員交流会の様子

【総務広報委員 橋本 愛】

2019年度第2回総会

令和2年2月5日(水)、神奈川県社会福祉会館にて第2回総会が開催されました。冒頭に田代会長の挨拶があり、その後出席30名、委任状提出30名の全会員数の過半数を満たし、総会が成立しました。議長には泰明会 橋本 愛氏が全会一致で任命され、以下の議事を進行了しました。

- 第1号議案 2019年度収支補正予算(案)について
- 第2号議案 令和2年度事業計画(案)について
- 第3号議案 令和2年度収支予算(案)について
- 第4号議案 その他

審議の結果、全ての議案が承認されました。最後に甘利副会長の挨拶があり、総会が終了しました。

【総務広報委員 渡邊 成仁】

総会研修会

令和2年2月5日(水)に研修会を開催し、講師に吉本興業所属のお笑いコンビレギュラーをお招きして『お笑い×介護レク』をテーマにご講演いただきました。

レギュラーは、大阪NSC21期生で、1998年4月にコンビを結成。2000年のNHK上方漫才コンテストで優秀賞、2002年のABCお笑い新人グランプリでは最優秀新人賞を受賞。2004年、「めっちゃめっちゃイケてるッ!」の「笑わず嫌い」に出演したことで「あるある探検隊」が受けて大ブレイク。2006年に東京進出し、全国区のテレビ番組で引っ張りだこに。2014年に「初任者研修(旧ヘルパー2級)、2017年にレクリエーション介護士2級を取得。現在、介護界の革命児として大活躍をされています。

今回の講演では介護事業所にてお笑いとお笑いレクを融合させた介護プログラムを実施している中での出来事をお話いただきました。まずは回想法を交えたアイスブレイクで場を和ませ距離を縮めていくことから始まり、受講者と一緒に「ノーズクロスゲーム」「まんぷくあひるの何食べた?」「さかさまゲーム」「ギャグ体操」等のレクを交えながら、介護レクで大切にしていることをお話いただき、笑いの溢れた楽しい講義となりました。

私たち社会福祉法人の職員が、いかにお客様に楽しんでいただくか、もっと工夫をしなければと改めて考えるきっかけにもなりました。



集合写真

【研修委員 高田 修嗣】

令和元年度都道府県経営協セミナー(後期)

令和元年12月23日(月)、暮も押し詰まった中、全国社会福祉協議会と全国社会福祉法人経営者協議会が主催するセミナーが横浜市で開催されました。参加した約160名の神奈川県社会福祉協議会経営者部会の皆様の前で、田代会長が全国青年会取組報告・入会PRをさせていただきました。「次代を担う人材の育成・資質向上をめざして」と題して、青年会の目的やメリット、活動の紹介を行い、会員拡大のご理解、ご協力をお願いさせていただきました。本会の会員を含め、多くの仲間が増えることを期待します。

【総務広報委員 福原 高洋】

お知らせ

今後の予定

コロナウィルスの影響もあり、現在決まっている予定はありません。詳細については、案内書、またはホームページでご確認ください。

会員状況

99名 法人数74法人 (令和2年3月31日現在)

編集後記

皆様、お忙しいところ広報誌の原稿作成にご協力いただきありがとうございました。コロナウィルスの影響もあり活動に制限がありますが、引き続き、会員の皆様にとって有益な広報誌となるよう総務広報委員一同努めてまいりますので今後ともよろしくお願ひ申し上げます。(Yuki Ishikawa)

発行/神奈川県社会福祉法人経営青年会

連絡先/〒221-0844

横浜市神奈川区沢渡4-2

神奈川県社会福祉会館内

(福) 神奈川県社会福祉協議会

福祉サービス推進部

電話: 045-311-1424

Fax: 045-320-4077